



第6回アジア未来会議

基調講演

渥美国際交流財団関口グローバル研究会 (SGRA) ・ 中国文化大学共同主催

中国文化大学会場 & オンライン (Zoom) ハイブリッド開催

国際感染症と台湾—新型コロナウイルスとの共存かゼロか?

前 (第14代) 中華民国副総統 陳建仁 Chien-Jen Chen

2022年8月27日 (土) 14:20~15:30 (台湾時間)

(日本時間) 2022年8月27日 (土) 15:20~16:30

英語・中国語・日本語 3言語同時通訳で開催

参加無料

2019年12月に中国武漢でCOVID-19が発生して以来、COVID-19のパンデミックへの防疫対策は、2020年12月のワクチン発売開始と2021年12月のオミクロン株の世界拡散を分岐点に、大きく3段階に分けることができる。第一段階では、感染地域からの入国者の自宅隔離、確定症例の隔離治療、濃厚接触者の自宅隔離、国民の感染症対策への尽力など、ウイルス拡散を阻止する非医薬品的介入 (NPI) により、予防を達成することが可能である。ワクチン発売後の第二段階では、NPIに加え、国民のワクチン接種による集団免疫を高め、感染者数を減らすことである。オミクロン株蔓延後の第三段階では、「ゼロ」政策から「ウイルス共存」政策への転換が必要であり、ワクチン接種率の向上やNPI措置のほか、地域における病原体検査や抗ウイルス薬の普及と医療機関における中・重症者への治療強化が必要である。2020年1月21日に台湾で初めて確認された感染者は武漢からの入境で、以後、政府と民間が一体となって防疫に取り組み、「慎重な態度、迅速な対応、前倒しの態勢づくり、情報公開と透明性、国民の団結」という特徴を生かしたことで、台湾の防疫は成功モデルとなり、長期にわたりゼロコロナを維持してきた。2021年末にいたるまで、台湾はOECD諸国やシンガポールと比較して、人口100万人あたりの累計感染者数が最も少なく、人口100万人あたりの累計死亡者数が世界で2番目に少ないにもかかわらず (ニュージーランドに次ぐ)、2020年のGDP成長率3%超は維持していたことから、世界各国の驚きの的となった。これは、グッドガバナンス (良き統治) とグッドシチズンシップ (良き市民) の好循環によるものである。



“新型コロナウイルスによるパンデミックが猛威をふるう中、
すべての国が安全になるまでいかなる国も安全ではない。
世界中の団結と国際協力によってのみ、世界的疫病に有効に対処できるのである。”



陳建仁 Chien-Jen Chen

国立台湾大学動物学科卒業、国立台湾大学公共衛生研究所（大学院）にて修士号取得（1977年）、米国ジョージ・ワシントン大学公衆衛生大学院疫学部にて博士号取得（1982年）。台湾大学公衆衛生学部学部長（1999年～2002年）、行政院衛生署署長（2003年～2005年）、行政院国家科学委员会主任委員（2006年～2008年）、中央研究院副院長（2011年～2015年）、中華民國第14代副總統（2016年～2020年）を歴任。現職は中央研究院ゲノミクス研究センター特別招聘研究員。

<受賞歴> 中華民國總統科学賞（2005年）、中央研究院院士（1998年）、世界科学アカデミー会員（2005年）、米国科学アカデミー会員（2017年）、中華民國中山勳章（2020年）、ローマ教皇庁科学アカデミー会員（2021年）

<お申込み>

オンラインでご参加の方の申込フォーム

<https://onl.bz/xekywMA>



会場参加の方の申込フォーム

<https://forms.gle/28g7Sp444ETZT1ma7>



<お問合先> アジア未来会議事務局 afc@aisf.or.jp

基調講演中の技術トラブルはZoomのチャット機能でご連絡ください
